

## 第2部 まちづくりトーク

### テーマ：「洛西ニュータウンにおける買い物事情」

～サブセンターの役割をみんなで考えよう～

#### 前半：パネルディスカッション



吉野 龍二氏  
(新林商店連合会相談役、  
(株)エーコーブ  
京都管理部課長)

- ・ Aコープ(店)は、まちびらきから開店しているニュータウン内の商店の“老舗”である。現在、新林商店街の経営は厳しい。周辺へのスーパーの出店、競合店との価格競争といった影響も大きい。また客の年齢構成の変化が見られる。最近、商品の配達を行っているが、利用者はすべて高齢者である。
- ・ サブセンターの利便性を高めること(駐車場の確保、サブセンターをつなぐ循環バスの実現 etc)で、活性化につながるのでは。

- ・ 福西学区の買い物の現況として、最近は健康ブームもあり、ラクセーナやマツモトまで歩いて買いに行く方が多い。高齢者も片道は歩き、帰りはバスという方がいる。ネットショッピングの普及もあり、買い物に出ない若者も多い。
- ・ 福西センターの利用者の中には、店舗内が狭くてバギーを押せないことを理由に、車で大型スーパーに行ってしまうという状況がある。
- ・ 個性ある店が少なく、子どもが楽しめるような駄菓子屋や、週に一回地産地消の朝市のようなものを開催してほしいとの声も。



北村 洋子さん  
(福西学区)



能登 富美代さん  
(境谷学区)

- ・ ラクセーナや他のスーパーまでの道はアップダウンが多く、高齢者は通いにくい。近く(サブセンター)にスーパーが必要である。
- ・ 買い物における消費者ニーズとして、少しぐらい高くても安全でいい商品を求める声もある。

- ・ 竹の里センターには一部の日持ちする食料品をのぞき、日用品を扱う店舗が無い。ラクセーナや生協の宅配等で一通りの買い物ができるものの、高齢化が進むと運転できなくなる方もおられるだろうし、サブセンターで身近に買い物ができるようにすることも必要。



奥原 道卿氏  
(竹の里地域)



西川 信行氏  
(京都市住宅供給公社  
洛西事業部事業推進課長)

- ・ サブセンターでの商店の閉店、撤退が続いたのは、人口の減少、少子高齢化が進み、利用客が買う量も次第に減ってきたことや、ニーズの多様化といった影響が大きい。
- ・ 子育て世代がニュータウンに住みたいというような魅力ある空間にしなければ、根本的な解決にはならない。
- ・ 各会館をもっと利用していただくため、統合や運動施設への転換など、住民の要望も聴きながら、京都市の協力も得て、いろいろな方策を考えていきたい。



安枝 英俊氏  
(京都大学大学院  
工学研究科助教)

- ・ 高齢期になればサブセンターを必要とする方は多い。サブセンターにどういった店舗を呼ぶかは、ニュータウンをどういったまちにするか、将来の生活をどう考えるかということとリンクし、中長期的に考える必要がある。
- ・ サブセンターが荒廃してしまうのは地域にとっても問題であり、早急に議論すべき課題である。短期的には、サブセンターが気軽に集まれる空間、交流の場となるように努力することが活性化につながるのではないかと。



高見 孝幸氏  
(京都市産業観光局  
商業振興課長)

- ・ 市はおよそ160の商店街があり、なかでも多いのは近隣型といわれるまちなかにある一般的な商店街で、ここが一番疲弊している。商店街はコミュニティの核でもあり、商店街が弱ると地域も弱るので、振興策に力を入れる必要がある。
- ・ NTのように人工的に計画によって作られた商店街は、外部から広範囲の土地を購入するという形での商業施設の出店は無いが、その地域だけで固定されてしまう。
- ・ 1000㎡以下の生鮮食品に特化した商店が住宅地に出店するというケースが最近多く、これは外食機会の減少、高齢化の影響がある。
- ・ 最近は、昔のお米屋のような対面型・御用聞きというシステムがミニスーパーを中心に急速に復活しつつある。
- ・ 高齢者対策と生鮮三品の供給安定が今後の大きな課題。

- ・ 今現在のサブセンターは、30年前と比べ、かなり衰退している。営業が成り立つ環境を作り、それを市がどのようにサポートするかが課題。
- ・ ビジョンにうたわれているように、住民の皆さんが考えられたことにおいて、市としてどのような支援・取組ができるかを一緒に考えていきたい。



板倉 康夫氏  
(京都市都市計画局都市  
総務課外郭団体担当課長)

#### 後半：意見交換会

##### (主な意見)

- ・ 高齢化社会を踏まえ、“身近に買い物ができるサブセンター”を実現してほしい。
- ・ ニュータウン(サブセンター)巡回バスについて、運営が成り立つためには、事業者だけではなく、住民自らもバスを守り、維持・改善していこうという意識を持つ必要がある。
- ・ サブセンターの活性化のため、人を集められるようなイベントをもっと推進する必要がある。住民としても協力できることが多くある。
- ・ サブセンターについて、住民が気軽に集まれる場所の確保、工夫をしなければならない。

